

現場の声に答える「技術屋集団」

三晃精機

江戸時代から盛んな綿作で「大和木綿」の産地として栄え、繊維産業が発展したものづくりのまち、奈良県大和高田市。「開発型技術屋集団」をキャッチフレーズに、数々のユニークな商品を生み出してきたのが「三晃精機」だ。農作業や建設の現場のニーズを的確にとらえた商品開発力は、産官学との共同研究にも生かされている。

社長自ら全国行脚

1960年の創業当初は、旋盤のメーカー。笹岡元信社長の父で、創業者の操氏が時代のニーズを巧みにくみ取り、自動車関係の工作機械や農業機械の製造に手を広げてきた。

85年に発売し、現在も主力商品であるポータブル・エンジンスターター「バッテリーカ」は、笹岡社長自ら車を運転して営業に全国行脚した体験から生まれた農業機械用エンジンスターターだ。全国行脚に使っていた車は古く、バッテリーがよくあがった。常に予備を積んでいたのが問題ではなかったが、熊本を訪れた際、トラクターのエンジンがかからずに困っていた農家の

人を見かけ、予備のバッテリーで始動させた。

広大な農地は周囲に何も無い。自分の車と同様、トラクターも古くなればエンジンはかかりにくくなる。「これはいける」と、予備のバッテリーをコンパクトに改良し、トラクター用エンジン始動機として試作。これがヒット商品となり、改良を重ねた。

現在はショベルカーなどの建設機械のほか普通乗用車、トラックなどの大型車両でも使える。縦8.5インチ、横15インチ、高さ13インチで重さ約3.5キログラムと、通常のバッテリーの5分の1程度大きさながら、パワーは十分だ。

「バッテリーカ」は、瞬間的に約1000ワットのフラッシュ電流を生みさせる特殊電池を内蔵。大手メーカーに外注し、組み立てて自社ブランドとして販売している。三晃精機には、試作や研究開発用の工場はあるが、大型の製造設備はない。「それでこそ、うちの会社です」と笹岡社長は胸を張る。従業員10人の小さな会社は、ニーズに応じた開発に取り組む、世界に誇る技術屋の集団なのだ。

これまで開発した商品は「バッテリーカ」同様、すべて現場を歩いてくみ取ったニーズから産み出したもの。草刈り機用の刃物とギミック、ニンニクの根切り機、農業攪拌機、チェーンソーの目立て機……。現場で聞いた苦労や課題を解決するためのさまざまな工夫を凝らし、使いやすさにこだわった。開発した商品は農作業の省力化や効率化につながり、ヒット商品となって実績につながった。

産官学との研究重点

商品開発とともに力を入れているのが、さまざまな分野での研究だ。産官学連携に重点を置いており、共同研究論文は「サイエンス」や「ネイチャー」にも掲載。海外からも注目される存在となっている。

奈良県警などと共同で、蛍光灯に巻くだけで「防犯灯」になる防犯用ブルーライトシートを開発。奈良女子大学（奈良



主力商品「バッテリーカ」を組み立てている本社工場。主要部品の製造は大手電池メーカーが行っている
＝奈良県大和高田市

市)、奈良工業高等専門学校（奈良県大和郡山市）と共同開発した、高齢者や女性でも使いやすい農作業用の電動運搬車は、2013年度の「科学技術白書」に掲載された。

全従業員が研究者として高い能力を持つ三晃精機。「うちの一番の資産は、知的資産」と、今後も現場でくみ取ったニーズから、社会に役立つ商品開発を目指す。（山本岳夫）

■会社概要

- ▷ 本社＝奈良県大和高田市東三倉堂町7-13 (☎0745・52・0025)
- ▷ 設立＝1960年1月

▷ 資本金＝4000万円

- ▷ 従業員＝10人
- ▷ 事業内容＝建設機械や農業機械の関連商品、医療用機械器具の製造・販売

奈良発



オリジナル商品開発し社会に貢献

—現場のニーズを大切にするのは

「メーカーが何が一番欲しいのか」というと、『何を作れば売れるのか』というアイデア。それを得るには、自ら現場に行き、徹底的にユーザーに話を聞かせてもらうこと。そこから、ユーザーに喜んでもらえる新たな商品が生まれる。『良品を作り、ユーザーに貢献する』ということ、経営方針の一つにしている」

—商品開発分野は多岐にわたる、幅広い

「商品が売れたときにも有頂天にならず、常に先を読んでおくことが大事。良い時の次には、悪くなると考えて備えておく。ヒット商品が生まれたときも、それにあぐらをかいて怠けていると、すぐにだめになってしまう」

—産官学での共同研究に積極的なのは

「利益を有効に使うために始めたが、共同研究がすばらしいのは、大学や研究機関の研究者が可



笹岡 元信社長

ささおか・もとのぶ 大阪工業大卒。工作機械メーカー勤務を経て、父・操氏が創業した三晃精機に1968年に入社。操氏の死去に伴い、83年社長に就任。71歳。奈良県出身。

能性があると考えたテーマに取り組むことができること。自分だけが『これは良い、売れる』と、うぬぼれているとできないテーマがある

—社是の「E=MC²」の意味とは

「本来はアインシュタインの公式だが、うちではEはEnergy（エネルギー、能力）、MはMan（人間）、CはChallenge（挑戦）、Capacity（才能）、Create

（創造する）などと解釈している。「学歴や年齢などに左右されず、目の前にある問題に真剣に全英知を傾注してやれば、必ず目標は達成できる」と、挑戦や能力を最も重要視しているということを表している

—今後の事業展開は
「これからも社員と、大学や研究機関などとともに共同研究を進めて、オリジナルの商品を開発し、社会に貢献し続けていきたい」

イチ押し



重い荷物も運搬楽々「電動一輪車」

20度近くの傾斜がある斜面やでこぼこ道でも、重い荷物を楽に運ぶことができる「電動一輪車」＝写真。車輪部分にモーターを組み込んだインホイールモーターで、手元のレバーを押すと力強く前進し、レバーを離すと止まる安全設計だ。スイッチを切り替えるだけで、バックも簡単にできる。

柿栽培が盛んな奈良県下市町栃原地区で、高齢者も楽に長く農業が続けられるように、奈良女子大学や奈良県農業研究開発センターなどと取り組んでいる「らくらく農法プロジェクト」で、ガソリンエンジンの柿の運搬車に代わる安心・安全操作の電動運搬車として、文部科学省の委託事業で開発した。

バッテリーは特殊電池で家庭でも充電できる。8月中にも発売する予定で、「地域が元気になってくれれば」と活躍に期待をかけている。